

平成22年度財団法人国際エメックスセンター事業報告書

I. 事業の実施

1 閉鎖性海域環境保全推進事業

ア 第9回世界閉鎖性海域環境保全会議（エメックス会議）の開催準備等

① EMECS9開催準備

第9回エメックス会議（EMECS9）を平成23年8月28日～31日、アメリカ合衆国メリーランド州ボルチモア市で開催するため、国際エメックスセンター第13回科学・政策委員会（平成22年6月30日～7月1日）で議論を行った。

また、平成22年9月11日～18日、米国メリーランド州ボルチモア、ワシントンDC等を、渡辺正孝科学・政策委員長と国際エメックスセンター事務局が訪問し、現地メリーランドにおけるEMECS9運営委員会に参加して、開催準備協議を行うとともに、会場となるマリオット・ウォーターフロントホテル等を現地確認した。ワシントンDC等では、米国環境保護庁や在米国日本国大使館等を訪問し、EMECS9開催に向けての支援要請と情報提供を行った。



その後、主としてメール等により、現地メリーランドのEMECS9運営委員会等と情報交換、連絡調整を継続して行っている。

アブストラクトについては、2月25日で応募が締め切られ、プログラム委員会において分科会等の会議構成について検討がなされることとなっており、4月末にはプログラムの概要が明らかになる見通しとなった。

○ EMECS9の概要

(1)テーマ *“Ensuring Accountability and Effective Communication for Successful Integrated Management of Enclosed Coastal Seas”*

「閉鎖性海域の統合的管理を実現するための、説明責任と情報共有環境の確保」

(2)開催期間 平成23年(2011年)8月28日～31日

(3)開催場所 アメリカ合衆国メリーランド州ボルチモア市

ボルチモア・マリオット・ウォーターフロント(ホテル兼会議場)

(4)分科会テーマ

- ・説明責任
- ・持続可能なアプローチ
- ・財務及び資金調達

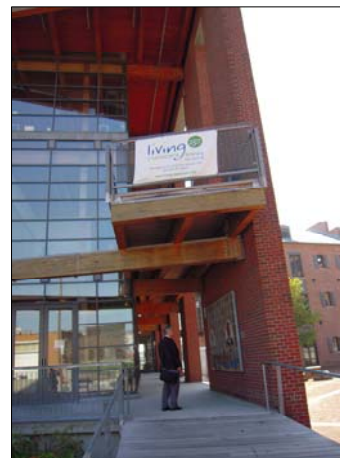
- ・多面的なパートナーシップ
- ・革新的な教育とコミュニケーション
- ・基本的な知見を支える科学

(5)全体セッション

- ・基調講演
- ・会議宣言、次回会議発表

(6)特別セッション

- ・チェサピーク湾セッション
- ・アジアセッション
- ・青少年環境教育交流セッション
- ・里海セッション
- ・APNセッション
- ・沿岸ハザードセッション（油汚染と津波）



青少年環境教育交流セッション会場(予定)

(7)日程

	午前	午後	終日	夜
8月28日	・開催趣旨説明・分科会	・分科会	ブ ー ス 展 示 ポ ス タ ー 展	歓迎レセプション
8月29日	・全体セッション(挨拶等) ・基調講演・分科会	・分科会		
8月30日	・分科会	・分科会		クロージング・ディナー
8月31日	・分科会・閉会セッション	・フィールドトリップ		

(8)アブストラクト提出状況 160件

② EMECS10以降の開催検討

平成22年6月に開催した第13回科学・政策委員会において、第10回エメックス会議

(EMECS10)の開催地について協議・検討を行った結果、EMECS10は、平成25年(2013年)、トルコにおいてMEDCOAST(地中海沿岸環境国際会議)と共同で開催することとして調整を行っていくこととした。



また、第11回エメックス会議 (EMECS11)

の開催候補地についても、協議が行われた結果、これまでエメックス会議の開催実績がない、ロシアまたは韓国を開催候補地として検討を進めることとなった。

イ 生物多様性国際シンポジウムの共催

生物多様性条約第10回締約国会議が平成21年10月に名古屋市で開催されること、また、生物多様性は沿岸域の適切な管理と利用に関



シンポジウム会場の状況

して重要な要素であることから、関係団体とともに「生物多様性国際シンポジウム」を共同で開催した。

- [テーマ] いのちが共生する兵庫を私たちの手で未来へ
～生物多様性を考えるNGO・NPO、市民のHyogo対話～
- [日時] 平成22年9月9日(木) 10:00～16:50
- [場所] 兵庫県公館 大会議室
- [主催] 兵庫県、兵庫県立人と自然の博物館、財団法人ひょうご環境創造協会、アジア太平洋地球変動研究ネットワーク(APN)センター、財団法人国際エメックスセンター
- [参加者数] 約350名
- [概要]
- ・基調講演 「わたしたちの未来と生物多様性」
鷺谷いずみ(東京大学大学院教授)
 - ・セッション1 「生態系の保全とサービスの重要性」
国内外の研究者等による発表
 - ・セッション2 「生物多様性とNGO・NPO、市民の関わり」
国内NGOや市民、海外の研究者による発表
 - ・総合セッション 「生物多様性保全を私たちの手で～未来へつなぐ市民活動の推進に向けて～」
鷺谷教授のコーディネートにより、セッション1及びセッション2のコーディネーター、発表者が参加し、パネルディスカッションが行われた。
 - ・併せてNGO・NPO等による活動紹介等のポスター展示が行われた。

ウ エメックス活動の推進

国際的な調査・研究活動の推進に向けて、海外研究者等との人的ネットワーク



チェサピーク湾基金の訪問

を構築していくため、関連する国際会議等に科学・政策委員等を派遣し、エメックス活動のPRを行うこととしている。

平成22年度は、EMECS9開催準備のため平成22年9月に行った米国訪問の機会を活用して、メリーランド州にあるチェサピーク湾基金等を訪問し、エメックスセンターの活動PRと

ともに、EMECS9への支援要請等を行った。

エ 国内外機関とのパートナーシップの形成

① IGES-EMECS-APNシンポジウムの開催

神戸市に集積する国際的な環境関係団体であるAPN(アジア太平洋地球変動研究ネットワ



シンポジウム会場の状況

ーク) センターやIGES (財団法人地球環境戦略研究機関) 関西センターなどと連携し、IGES-EMECS-APNシンポジウム「気候変動と沿岸域管理」を開催した。

[テーマ]	適応策を考慮した沿岸域統合管理に向けて
[日時]	平成22年10月8日(金) 13:30~16:30
[場所]	よみうり神戸ホール
[主催]	兵庫県、財団法人国際エメックスセンター、財団法人地球環境戦略研究機関(IGES) 関西センター、アジア太平洋地球研究ネットワーク(APN) センター
[参加者数]	約135名
[概要]	<ul style="list-style-type: none">・基調講演Ⅰ「気候変動問題と適応策に関する国際的動向」 竹本明生 東京大学サステナビリティ学連携研究機構特任研究員・基調講演Ⅱ「気候変動の影響と適応策に基づく沿岸域管理のあり方」 磯部雅彦 東京大学副学長・同大学院新領域創成科学研究科教授・パネルディスカッション コーディネーター：渡辺正孝 (慶應義塾大学大学院政策メディア研究科教授) パネリスト：磯部 雅彦 東京大学副学長 松田 治 瀬戸内海研究会議会議長 岡 二三生 京都大学大学院工学研究科教授 田畑日出男 いであ株式会社社会長兼社長

② 第3回EAS(東アジア海域)パートナーシップ会議への参加

平成20年(2008年)に、PEMSEA(東アジア海域環境管理パートナーシップ)の非政府パートナーとして加入したが、これらのパートナーが一堂に会する第3回EAS(東アジア海域)パートナーシップ会議が平成22年7月26日から29日に中国丹東で開催された。



この機会をとらえ、エメックスセンターでは7月26、27日の2日間、同会議に参加し、2011年8月に開催予定のEMECS 9のPRを行うとともに、参加機関との情報交換を行った。同会議では、2009年11月に開催された東アジア海域会議等の経過報告、国際的法人化に向けた今後の活動方針、PEMSEAが実施する「東アジア海域の持続可能な開発戦略(SDS-SEA)」についての協議のほか、今後の協議を進めていくためのワーキンググループの立上げが確認された。

③ 生物多様性条約第10回締約国会議を通じたエメックス活動のPR

2010年10月名古屋市で開催された生物多様性条約第10回締約国会議の機会を捉え、平成22年10月23日～29日の7日間、会議場に隣接する生物多様性交流フェア会場（熱田神宮公園）において、瀬戸内海環境保全知事・市長会議、社団法人瀬戸内海環境保全協会と共同で関連イベントへの参加や展示会への展示等を行い、エメックス活動のPR、関連NPO等との情報共有を図った。



展示会場の状況

オ 世界の学生を対象とした青少年環境教育交流セッションへの派遣

私たちがこれまで受け継いできたかけがいのない環境を、将来にまで引き継いでいくためには、次世代を担う若者の環境保全に対する認識を高めることが重要である。

こうしたことを踏まえ、世界の学生を対象として環境保全活動等に関する発表概要等の小論文公募を行い、審査の上選考された学生をEMECS9の青少年環境教育交流セッションへ派遣等を行うため、次のとおり募集を行った。

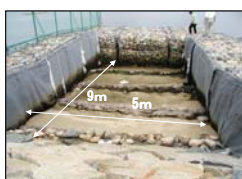


(参考)
EMECS8での青少年環境教育交流セッション

[国内募集]	・ 応募締切	平成23年2月28日(月)
	・ 募集人数	2名(1名1課題)
	・ 決定予定	平成23年5月末まで
[海外募集]	・ 応募締切	平成23年3月31日(木)
	・ 募集人数	若干名(発展途上国・地域の18歳以下の学生・生徒)
	・ 決定予定	平成23年5月末まで
	・ 備考	1課題当たり20万円を上限に助成

カ 閉鎖性海域における環境保全・創造方策に関する調査研究

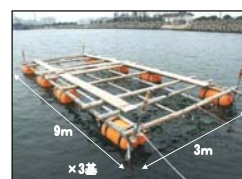
水質や底質、生物の生息環境の劣化等の進んだ湾奥部の環境の再生をめざして尼崎港に設置している人工干潟等の実証試験施設を共同研究の場として活用し、徳島大学や大阪府立大学、兵庫県環境研究センター等関係大学や研究機関と連携して閉鎖性海域における環境保全・創造方策に関する調査研究の推進を図った。



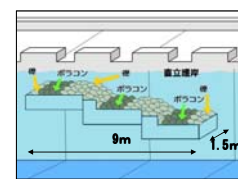
石積堤を用いた閉鎖性干潟



人工干潟



浮体式藻場



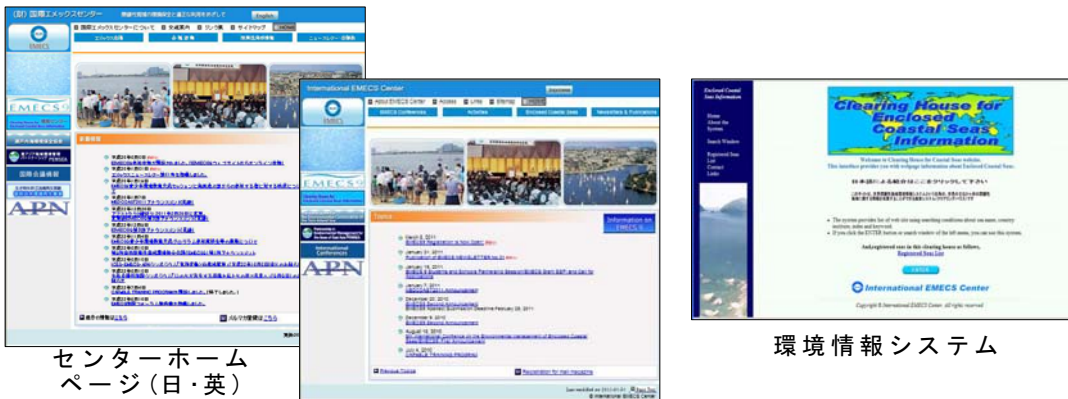
エコシステム護岸

2 情報収集整備活用事業

ア 情報収集・提供システムの運用・管理

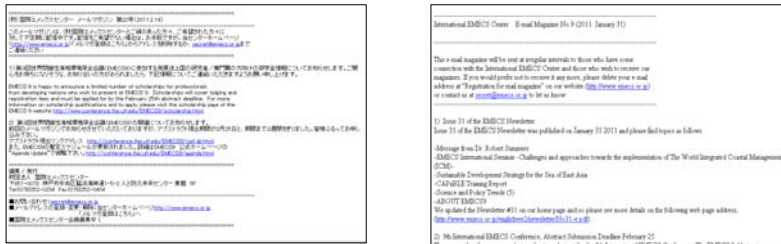
情報交流の基盤として、平成20年度に改定したインターネット・ホームページ（日本語版及び英語版）の運用、管理を行うとともに、メール配信システムによる情報提供を行った。

また、内外の関係者が、閉鎖性海域に関する水質等の環境データや社会経済データ等の情報を、インターネットを通じて検索し活用できる「閉鎖性海域環境情報システム」の運用・管理を行った。



センターホームページ(日・英)

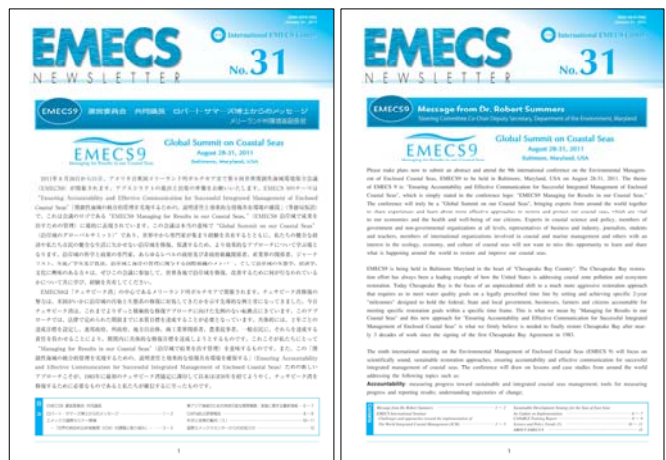
環境情報システム



メールマガジン(日・英)

イ エメックスニュースの発行

当センターの活動状況、世界の閉鎖性海域の環境保全活動等を掲載した「エメックスニュース」を、日本語及び英語で発行した。なお、ニュースレターの配布については、ホームページからのダウンロードを基本としている。



日本語版

英語版

第31号	<p>[発行年月] 平成23年1月</p> <p>[内 容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ EMECS9運営委員会共同議長 ロバート・サマーズ博士からのメッセージ ・ エメックス国際セミナー開催 －「世界の統合的沿岸域管理(ICM)の課題と取り組み」－ ・ 東アジア海域のための持続可能な開発戦略 ：実施に関する最新情報 ・ CAPaBLE研修報告 ・ 科学と政策の動向(5) ・ 国際エメックスセンターからのお知らせ
------	---

3 人材育成事業

ア 開発途上国の行政官への統合的水環境管理研修

我が国の閉鎖性海域における環境保全の経験を基に、開発途上国の中堅行政官を対象とした「沿岸域・内海およびその集水域における統合的水環境管理研修」を国際協力機構（JICA）の委託により実施した。22年度は、昨年度まで実施してきた「閉鎖性海域の水環境管理研修」をベースに、統合的な沿岸域管理の視点等を加味して研修内容を改善したものである。

[研修期間] 平成22年9月6日(月)～10月29日(金)			
[研修リーダー] 松田治広島大学名誉教授			
[研修内容]			
講義	環境管理、水質保全等に係る基礎理論及び対策		
実習	水質モニタリング、生物モニタリング、リモートセンシング技術等		
現地見学	沿岸海域環境に関する研究施設、排水処理施設、環境教育現場等		
[研修員]			
	氏 名	国 名	所 属
1	ハテイル・マハ・カメル・イルギンティ	エジプト	環境問題省エジプト環境問題庁
2	モハメッド・アブ・リカール	エジプト	国立海洋水産研究所
	マソト・ハカザテ・カリミ	イラン	環境省自然環境デピュテーター
4	アブ・ラカリム・ゾベ・テ・ネジャト	イラン	環境省フージスタン州環境総合事務所
5	メテ・イ・ゴト・ラティ・シヨジヤイ	イラン	ペルシャ湾とオマーン海生態研究所
6	ラモン・リカマラ・ファブル	フィリピン	首都上水・下水道機構
7	フ・ハ・ファット・チャンカヤ	トルコ	環境森林省水資源局土壌管理部
<p>※本研修は平成2年度から兵庫県(社団法人瀬戸内海環境保全協会)が実施し、国際エメックスセンター設立後(平成7年度以降)は、同センターが実施している。平成2～22年度の研修員合計は29カ国142名。</p>			



フィールド実習



講義

イ 海の環境学習人材育成事業

これからの海の環境保全を担う人材を育成するため、尼崎港に設置している人工干潟・石積堤等の環境修復実証実験施設等を活用し、主として阪神間の小学生や地域住民等を対象に、海の機能、浅場の機能や役割、大阪湾・尼崎港の現状、海の生物とその働き等を内容とする環境学習を実施した。

[実施場所] 尼崎港内の実証試験施設及び武庫川下流浄化センター会議室

[実施回数] 6回

[参加者数] 222名

[プログラム内容]

- ・環境教育DVD「きれいな海をとりもどそう」
- ・二枚貝を使った海水浄化実験
- ・パックテストによる水質測定
- ・人工干潟等での生物採取と観察
- ・海中プランクトンの顕微鏡観察 他



親子を対象とした学習会



人工干潟での生物観察

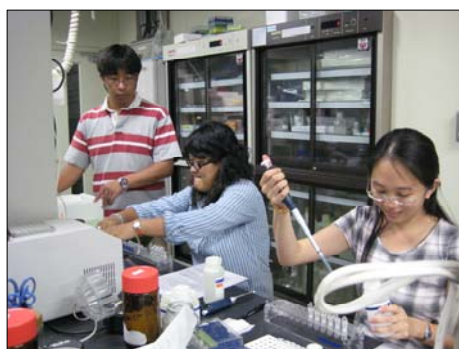
ウ 海外の若手研究者を対象とした能力開発研修（新）

海外を往来する船舶等に起因する外来生物種の侵入が、既存の生態系に大きな影響を与えているが、現在普及している形態的分類法だけでは、外来種の侵入を早期発見し、その影響を低減させることは困難と考えられる。

このため、東南アジア各国の研究者間で侵入外来生物種に関する情報を共有

することにより、早期発見・早期対応に役立て、生物多様性の保護に貢献することをめざし、神戸大学、北海道大学、福井県立大学において遺伝子マーカーを用いた藻類の同定技術研修を実施した。（APN助成事業：CAPaBLE）

[研修期間] 平成22年7月2日(金)～7月13日(火)			
[研修プログラム名] アジア太平洋の沿岸域における生物多様性の能力開発 ：遺伝子マーカーを利用した海藻分類手法の研修			
[研修リーダー] 川井浩史 神戸大学内海域環境教育研究センター長			
[研修内容]			
講義	遺伝子マーカーおよび形態学を用いた海藻分類研究		
実習	遺伝子マーカーを利用した海藻分類手法		
[研修員]			
	氏名	国名	所属
1	ハン・シャオチアン	中国	科学アカデミー海洋研究所
2	ミンターン・ティ・ヌグエン	ベトナム	科学技術アカデミー生物技術研究所
3	アンチャナ・フ・ラテップ	タイ	プリンス・ソングクラ大学
4	ウォンシェン・ソグ	マレーシア	マレー大学
5	ソラタコーン・フィムラ	タイ	カセットサート大学
6	ロイケ・イワン・モントラル	インドネシア	サム・ラルランギ大学



研究室での実習



修了式

4 普及啓発事業

ア エメックス国際セミナーの開催

海外における閉鎖性海域の環境保全の取組状況について、県民、企業、行政機関等に最新情報を提供するとともに、海外関係者との情報交流の機会を提供するため、科学・政策委員来日の機会をとらえ公開セミナーを開催している。



セミナー会場の状況

平成22年度は、「世界の統合的沿岸域管理(ICM)の課題と取り組み」をテー

マに、チェサピーク湾及び地中海における統合的沿岸域管理の課題と取り組み、また、持続可能な開発を実現する上での経済学的視点からの考察も交えて、国際セミナーを開催した。

[テーマ]	「世界の統合的沿岸域管理(ICM)の課題と取り組み」
[日時]	平成22年7月1日(木) 13:30~17:00
[場所]	ラッセホール
[主催]	国際エメックスセンター
[参加者数]	約90名
[講演等]	<ul style="list-style-type: none">・開催趣旨説明と総括 座長 松田治広島大学名誉教授・「チェサピーク湾環境修復の取り組み：過去の成功と将来の課題について」 ロバート・サマーズ博士 アメリカ合衆国メリーランド州環境省副長官・「地中海の統合的沿岸域管理の課題と取り組みについて」 イヴィツァ・トルンビッチ博士 地中海広域生態系に関する国連環境計画地中海行動計画 (UNEP/MAP)地球環境ファシリティ(GEF)戦略パートナーシ ッププロジェクトマネージャー・「持続可能な沿岸域管理に現状の対策では不十分である～経済とイデオロ ギーオリエンテーションにおけるパラダイムに関して選択肢を議論する必要性」 ペーター・ゼーダーバウム博士 スウェーデン・メーラダーレン大学名誉教授

イ 環境イベントへの出展等

エメックス活動の普及啓発と閉鎖性海域の環境情報発信のため、次の環境イベントの機会をとらえてパネル等の出展を行った。

・ [出展イベント]	ひょうごエコフェスティバル2010
[実施年月日]	平成22年10月16日(土)~17日(日)
[場所]	兵庫県立有馬富士公園
・ [出展イベント]	COP10生物多様性交流フェア
[実施年月日]	平成22年10月23日(土)~29日(金)
[場所]	名古屋市熱田神宮公園

Ⅱ. 理事会、評議員会、科学・政策委員会の開催

1 理事会の開催

① 第27回理事会

評議員2名について人事異動があったため、第17回理事会で了解された書面表決による理事会で、評議員の補欠選任を行った。

[開催月日]	平成22年5月18日(火)
[議案等]	評議員の補欠選任に関する件

② 第28回理事会

平成21年度の事業報告及び収支決算報告について承認を得るとともに、顧問の選任を行った。また、今後の公益財団法人への移行に向けて最初の評議員候補者の推薦等を行うとともに、当センターの今後の活動について意見交換を行った。

[開催月日]	平成22年6月21日(月)
[開催場所]	兵庫県公館第2会議室
[議案等]	議案第1号 平成21年度事業報告に関する件
	議案第2号 平成21年度収支決算報告に関する件
	議案第3号 最初の評議員選定委員会委員の補欠選任に関する件
	議案第4号 顧問の選任に関する件
	議案第5号 最初の評議員候補者の推薦に関する件
	報告第1号 第9回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECS9)について
	報告第2号 生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)について

③ 第29回理事会

公益財団法人への移行に向けて定款の変更の案の議決を行うとともに、科学・政策委員会委員2名を補充選任した。

[開催月日]	平成23年1月6日(木)
[開催場所]	兵庫県公館第2会議室
[議案等]	議案第1号 定款の変更の案に関する件
	議案第2号 科学・政策委員会委員の補充選任に関する件
	報告第1号 第9回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECS9)について

④ 第30回理事会

平成22年度の事業計画及び収支予算の変更、平成23年度の事業計画及び収支予算について議決を得るとともに、主要事業について意見交換を行った。

[開催月日]	平成23年3月29日(火)
[開催場所]	兵庫県公館第2会議室
[議案等]	議案第1号 平成22年度事業計画書の変更(案)に関する件 議案第2号 平成22年度収支予算書の変更(案)に関する件 議案第3号 平成23年度事業計画(案)に関する件 議案第4号 平成23年度収支予算(案)に関する件 報告第1号 第9回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECS9)について

2 評議員会の開催

① 第25回評議員会

監事2名について人事異動があったため、第17回理事会で了解された書面表決による評議員会を開催し、監事の補欠選任を行った。

[開催月日]	平成22年4月27日(火)
[議案等]	監事の補欠選任に関する件

② 第26回評議員会

平成21年度の事業報告及び収支決算報告について同意を得るとともに、当センターの今後の活動について意見交換を行った。

[開催月日]	平成22年6月18日(金)
[開催場所]	兵庫県職員会館特別会議室
[議案等]	議案第1号 平成21年度事業報告に関する件 議案第2号 平成21年度収支決算報告に関する件 報告第1号 第9回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECS9)について 報告第2号 生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)について

③ 第27回評議員会

公益財団法人への移行に向けて定款の変更の案の議決を行うとともに、科学・政策委員会委員2名を補充選任した。

[開催月日]	平成22年12月27日(月)
[開催場所]	兵庫県民会館亀の間
[議案等]	議案第1号 定款の変更の案に関する件 報告第1号 科学・政策委員会委員の補充選任について 報告第2号 第9回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECS9)について

④ 第28回評議員会

平成22年度の事業計画及び収支予算の変更、平成23年度の事業計画及び収支予算について同意を得た。

[開催月日]	平成23年3月24日(木)
[開催場所]	兵庫県民会館鶴の間
[議案等]	議案第1号 平成22年度事業計画書の変更(案)に関する件 議案第2号 平成22年度収支予算書の変更(案)に関する件 議案第3号 平成23年度事業計画(案)に関する件 議案第4号 平成23年度収支予算(案)に関する件 報告第1号 第9回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECS9)について

3 科学・政策委員会の開催

① 第13回科学・政策委員会

第9回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECS9)の開催について、メリーランド州環境省のロバート・サマーズ副長官からの開催計画案の報告を踏まえ、運営委員会等会議準備体制や特別セッション、アナウンスメント等について熱心な意見交換が繰り広げられた。

また、第10回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECS10)の開催候補地をトルコとするとともに、第11回の会議開催候補地についても検討を行った。

さらに、最近の国際エメックスセンターの事業について報告、今後のエメックス活動について意見交換を行った。

[開催月日]	平成22年6月30日(水)、7月1日(木)
[開催場所]	ラッセホール ハイビスカス
[議題]	議題1: EMECS9について 議題2: 今後のエメックス会議について 議題3: エメックスセンターからの報告